

代表者会議資料

1 第32回県会長杯の競技規則等について

- 2013年日本バスケットボール協会ミニバスケットボール競技規則による。
※「第32回宮崎県会長杯ミニバスケットボール交歓大会実施要綱」に準ずる。

2 第32回県会長杯の審判割り当てについて

- リーグ戦方式により、各チームの帯同審判で運営していく。
- 出場チームは、審判ライセンスがD級以上の方を帯同審判とする。但し、2015年度までに日本公認資格を有していたE級の方は帯同審判として認められる。チームに、D級以上の審判がない場合は、各地区や知り合いなどを通して、帯同審判を確保する。旅費、謝礼、弁当代については各チームで決める。帯同審判についても、5台以内の車台数に含む。
※ 帯同審判用の駐車券はありません。相乗りしていただくか、チーム内で工夫してください。
- 割り当ての変更や交代等は勝手に行わないようにする。意見や相談等があれば、必ず審判長に連絡を行う。その後、会場の審判主任と協議する。
- JBA登録時、審判ライセンスE級の方を帯同審判に登録しているチームは、審判長に、誰をD級以上の帯同審判としたか、事前に連絡する。

3 審判員の方へのお願い

- (1) 活動方針「尊重」「導く」「学び続ける」のキーワードに則りお願いします。
- (2) 今大会の重点目標は、「ベンチ管理」です。
- (3) 審判やテーブル・オフィシャルズ、相手チーム、自チームに対し、失礼な態度で接したり、言動などがあつたりした場合などはテクニカルファウルをとり、守ってください。
 - ・ 子どもに対し「馬鹿」「アホ」「ボケ」などの人権を無視した言葉を発した時
 - ・ 殴るような真似をすることや、力づくで恐怖を与えること
 - ・ 試合中、子どもに対し恫喝した場合（大きな声で、失敗を責めるようなことなど）

4 指導者の方へ

- (1) 子どもはミスしたくて、ミスしているわけではありません。子どもには、失敗する権利があります。完璧なプレイヤーはいません。挑戦したことに対して、指導者は、認め、励ましましょう。恫喝などして、子どもを委縮させるようなことは、自分のコーチングテクニックがないことを表しています。
- (2) SNSなどが進化している時代です。周りの誰が見ても、気持ちの良い試合になるようにしましょう。そのためにも、みんなで声を掛け合い、駄目なものは駄目という考えのもと、声を掛け合っていきましょう。
- (3) 「これまでの指導不足」と自分の責任にすることで、課題に対する解決策を考え、指導に生かすことができます。自分にとっても子どもにとってもWin-Winです。

指導者のための 5 つの心得

常に自己評価を
忘れずに！

1 敗戦はあなたの責任です

敗戦をプレイヤーや審判のせいにすることなく、冷静に課題をみつ
けましょう。向上心を忘れず謙虚な気持ちで指導にあたきましょう。

2 体罰、言葉の暴力は厳禁です

全指導者で、体罰・暴言を根絶しましょう。指導者同士で注意し合える
関係づくりに努めましょう。

3 子どもの将来を考えた指導に心がけましょう

小学生の時期は、頭も体もおおいに成長します。技術に加え、適切な判
断力や行動力、マナーを指導しましょう。

4 選手をたくさん褒めましょう

プレイヤーは不安や緊張の中でプレイしています。結果ばかりに注目す
るのではなく、何かにトライしたことを褒めてあげましょう。

5 審判のレベルアップに貢献しましょう

Good Minibas には審判の育成が不可欠です。指導者がルールをよく学
習し、審判活動にも進んで取り組みましょう。

